

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第6部門第3区分
 【発行日】令和6年10月25日(2024.10.25)

【公開番号】特開2023-103928(P2023-103928A)
 【公開日】令和5年7月27日(2023.7.27)
 【年通号数】公開公報(特許)2023-140
 【出願番号】特願2022-78718(P2022-78718)
 【国際特許分類】
 G 0 6 N 2 0 / 0 0 (2 0 1 9 . 0 1)
 【 F I 】
 G 0 6 N 2 0 / 0 0 1 3 0

10

【手続補正書】
 【提出日】令和6年10月17日(2024.10.17)
 【手続補正1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】

20

【特許請求の範囲】
 【請求項1】

プロセッサを有する情報処理装置により実行される情報処理方法であって、
 前記プロセッサは、
教師あり学習に用いられる学習データに対してアノテーションされた正解データを取得すること、
前記教師あり学習に用いられる学習モデルに前記学習データを入力して予測データを算出すること、
前記学習データに対応付けられていた前記正解データと前記アノテーションされた正解データとの比較結果に応じて、前記学習モデルに設定された損失関数に用いられる前記アノ
テーションされた正解データと前記予測データとの誤差に付与される重みを調整すること
 、
前記重みが用いられる前記損失関数の出力値を用いて誤差逆伝搬法により前記学習モデルの学習を行うこと、
学習済みの前記学習モデルを出力すること、
 を実行する情報処理方法。

30

【請求項2】

プロセッサを有する情報処理装置であって、
 前記プロセッサは、
教師あり学習に用いられる学習データに対してアノテーションされた正解データを取得すること、
前記教師あり学習に用いられる学習モデルに前記学習データを入力して予測データを算出すること、
前記学習データに対応付けられていた前記正解データと前記アノテーションされた正解データとの比較結果に応じて、前記学習モデルに設定された損失関数に用いられる前記アノ
テーションされた正解データと前記予測データとの誤差に付与される重みを調整すること
 、
前記重みが用いられる前記損失関数の出力値を用いて誤差逆伝搬法により前記学習モデルの学習を行うこと、
学習済みの前記学習モデルを出力すること、

40

50

を実行する情報処理装置。

【請求項3】

情報処理装置に備えられるプロセッサに、
教師あり学習に用いられる学習データに対してアノテーションされた正解データを取得すること、

前記教師あり学習に用いられる学習モデルに前記学習データを入力して予測データを算出すること、

前記学習データに対応付けられていた前記正解データと前記アノテーションされた正解データとの比較結果に応じて、前記学習モデルに設定された損失関数に用いられる前記アノテーションされた正解データと前記予測データとの誤差に付与される重みを調整すること

10

、前記重みが用いられる前記損失関数の出力値を用いて誤差逆伝搬法により前記学習モデルの学習を行うこと、

学習済みの前記学習モデルを出力すること、

を実行させるプログラム。

20

30

40

50